

裁かれるべきは、人か、AIか。

分身AIによる犯罪を裁くSF法廷エンターテイメント

「注目すべきは、今すぐそこにある未来を予見する作品が、

インディペンデント映画から現れたこと」
映画監督山崎貴

前作「センターライン」のコメントより抜料

STORY

個人の趣味嗜好を学習した分身AIが普及した平成39年。

AIを被告人として起訴可能とする法律が施行され、知能機械犯罪公訴部に配属された新任検事来予天々首。 米子の相棒となる、喋る検察官バッジ"テン"、少々ドジな庶務"阿倍野"と出会い、ともにAI犯罪事件の捜査を開始する…。

01「ペルソナ」

自死した彼女を殺したのは、AI?

自死した女性の分身であるマネキン AI を取り調べる中、"彼女"は 「私は殺されたんです」と供述。

女性を死に追いやったのは、

人か、AI か。その裁判が今、始まる。

1.10公開



02 [名前のない詩]

目撃者は、歌詞生成AI

人気インディーズバンド yusqua のボーカルが通り魔事件に巻き込まれた。事件の目撃者は、彼のスマホにインストールされた歌詞生成 Al。バンドメンバーと米子は、曲作りを通じて、歌詞に隠された犯人の手がかりを探す。

「「楽曲提供:ワスレナ [#1,2,4,7] / 小野優樹 × 青地徹 [#5,6,8] / 松井孝夫 × はらよしひろ [#3]

03 [faith]

電子通貨の足跡を追え

2.7公開

島崎前市長(演:津田寛治)に医療機器入札を巡る贈収賄 疑惑が浮上、電子通貨「ラウンドコイン」での1500万円の 送金が確認された。米子は特捜部の三国と共に捜査を始めるが、 送金者「サカナシモリト」は自宅で死亡していることが発覚。 彼のアパートで、米子は「ジンコウチノウ」と名乗るAIと出会う。



2018年各国映画祭で数々の賞を獲得し、愛知県芸術文化選奨受賞の監督最新作インディペンデント映画界で規格外のエンタメシリーズが3作連続で劇場公開!

米子天々音が知能機械公訴部に配属 するまでを描いた前日譚「センター ライン」がU-NEXTほかにて配信中



劇場情報はこちら

https://www.interface2027.com

